

埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

—令和4年度—

2023

千葉市教育委員会

例言

- 1 千葉市では、市内の開発事業に先立ち、遺跡の内容や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施しています。本書は、その成果をまとめた市内遺跡埋蔵文化財調査報告書です。
- 2 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物散布地・貝塚・集落跡・古墳・塚・城館跡等を含めたものです。
- 3 発掘調査は千葉市教育委員会が主体となり、国庫補助金と市費により実施しました。報告書は市費により刊行しています。
- 4 事業主体及び調査組織は次のとおりです。

教育委員会事務局	教育長	磯野 和美
	教育次長	宮本 寿正
生涯学習部	部長	佐々木 敏春
文化財課	課長	佐久間 仁央
	課長補佐	横山 清次
特別史跡推進班	主査	森本 剛
	主任主事	石川 茜
	主任主事	服部 智至
文化財保護班	主査	中尾 麻子
	主任主事	佐藤 洋
	主事	千葉 南菜子
	主事	菊地 彩香
新博物館準備室	室長	蚊谷 友浩
	主任主事	武田 芳雅
	主任技師	永井 明男
埋蔵文化財調査センター		
	所長	西野 雅人
	主査	白根 義久
	主任主事	山下 亮介
	主任主事	松田 光太郎
	主任主事	木口 裕史
	会計年度任用職員	難波 美由紀
	会計年度任用職員	戸村 正己
	会計年度任用職員	岸本 高充
	会計年度任用職員	濱 秀輝

- 5 本書の執筆は、調査内容を調査担当者が、出土遺物については西野雅人、岸本高充が行い、木口裕史が編集しました。
- 6 出土遺物及び記録類等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管しています。

表1:発掘調査概要一覧

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	へたの台員塚	確認・本調査	3千教埋セ第397号	2022年2月24日～ 2022年3月24日	27.7㎡ (142.95㎡)	木口 裕史
		国庫補助	中央区仁戸名町275-7	個人住宅建築	個人	
2	へたの台員塚	確認・本調査	4千教埋セ第56号	2022年6月8日～ 2022年6月14日	5.0㎡ (133.44㎡)	木口 裕史
		市単費	中央区仁戸名町275-1、同6	住宅建築	株式会社千葉東建設	
3	へたの台員塚	確認調査	4千教埋セ第57号	2022年6月16日～ 2022年6月29日	110.0㎡ (1382.95㎡)	木口 裕史
		国庫補助	中央区仁戸名町275-7	宅地造成	株式会社千葉東建設	
4	立木南遺跡	確認調査	2千教埋セ第501号	2021年10月25日～ 2021年12月10日	470㎡ (3322㎡)	山下 亮介
		市単費	若葉区加曾利町 947-2、954-3、同6	宅地造成	個人	
5	原臺台遺跡	確認調査	3千教埋セ第186号	2021年8月31日～ 2021年9月15日	85.0㎡ (869.0㎡)	山下 亮介
		市単費	花見川区浪花町907-4	宅地造成・住宅建築	株式会社コネク	
6	高崎台遺跡	確認調査	3千教埋セ第462号	2022年3月22日～ 2022年3月31日	115.0㎡ (1209.12㎡)	松田 光太郎
		市単費	中央区星久喜町 315の一部	宅地造成	個人	
7	聖天遺跡	確認調査	4千教埋セ第42号	2022年5月31日～ 2022年6月7日	44.3㎡ (499.82㎡)	木口 裕史
		市単費	若葉区多部田町 65-1の一部、同7	店舗建設	個人	
8	柳沢遺跡・ 玄勝遺跡	確認調査	4千教埋セ第52号	2022年6月28日～ 2022年7月28日	342㎡ (3412㎡)	佐藤 洋
		市単費	若葉区小倉町 965-1、1024-2、1023-5	博物館および周辺施設整備	千葉市	
9	和磨地遺跡・ 琵琶首台遺跡	確認調査	4千教埋セ第26号	2022年7月14日～ 2022年8月15日	315.0㎡ (8609.84㎡)	木口 裕史
		国庫補助	中央区星久喜町938、954～959、938～954地先赤道、956地先赤道	宅地造成	有限会社開成	
10	地蔵作遺跡	確認調査	4千教埋セ第177号	2022年8月31日～ 2022年9月14日	164.0㎡ (2043㎡)	木口 裕史
		国庫補助	花見川区長作町 959-1、1265-1、同3	店舗建設	個人	

*調査面積の下段()内は事業面積

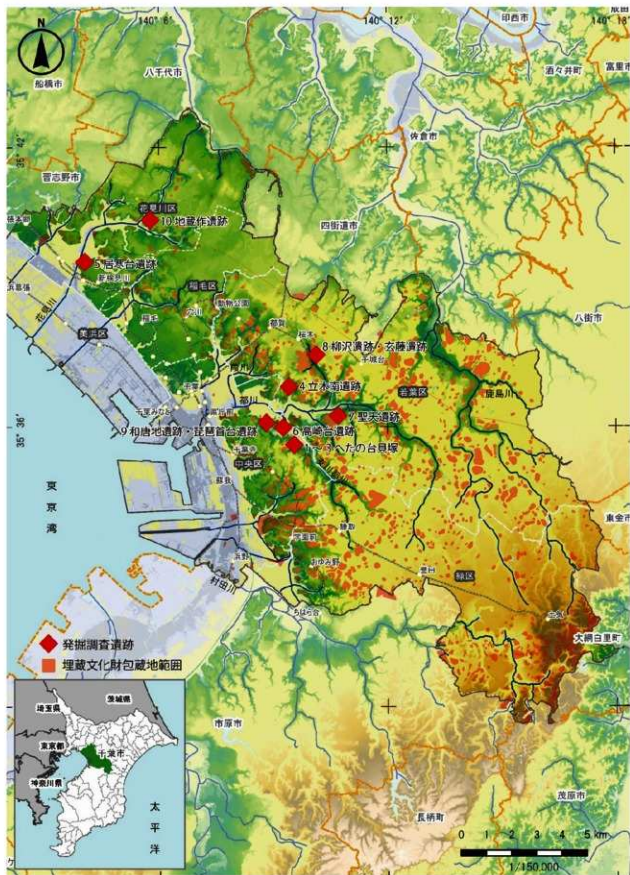


図1:発掘調査遺跡位置図

凡 例

- 1 本書に掲載している地図で使用した背景図の出典は以下の通りです。

発掘調査遺跡位置図 1/150,000	国土地理院基盤地図情報 10m メッシュより生成
位置図 1/10,000	国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図
位置図 1/2,500	千葉市基本図 (デジタルデータ)
- 2 地図・挿図の座標値は公共座標第IX系 (世界測地系) を基本としメートル表記としましたが、調査遺跡位置図は巻末の報告書抄録との整合から地理学座標系 (世界測地系) とし、経緯度で表示しました。
- 3 本書に掲載している挿図の縮尺は以下の通りです。

遺構配置図	1/500、1/1,000
グリッド配置図	1/200
セクション図	1/50
遺物実測図	2/1、1/1、1/2、1/3、1/4
- 4 発掘調査は重機掘削が可能などところまでは重機を使用し、トレンチの壁面や包含層の掘削、遺構の検出などは人力掘削で行いました。
- 5 土層説明に記号を示している場合は、農林水産省監修『新版 標準土色帖』を使用しています。

目 次

例言

表 1: 発掘調査概要一覧

図 1: 発掘調査遺跡位置図

凡例

目次

1	へたの台貝塚①	1
2	へたの台貝塚②	7
3	へたの台貝塚③	9
4	立木南遺跡	14
5	居寒台遺跡	17
6	高崎台遺跡	21
7	聖天遺跡	24
8	柳沢遺跡・玄藤遺跡	26
9	和唐地遺跡・琵琶首台遺跡	30
10	地蔵作遺跡	33
巻末	報告書抄録	36

1 へたの台貝塚①

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
へたの台貝塚	確認・本調査	3千教理セ第397号	2022年2月24日～ 2022年3月24日	27.7㎡ (142.95㎡)	木口 裕史
	国庫補助	中央区仁戸名町275-7	個人住宅建築	個人	

*調査面積の下段()内は事業面積

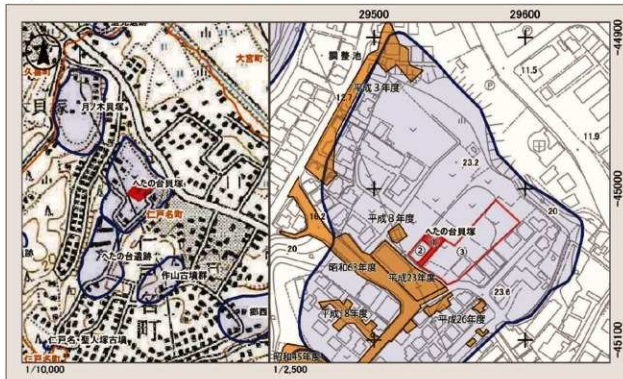


図2:へたの台貝塚①位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年1月13日付けで個人から住宅建築のための文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査にて敷地全体に貝層を確認したため、その保護に向けて協議を開始した。その結果、家屋部分は保護層を確保して保存し、污水管等を埋設する部分のみ本調査することで協議が整い、令和4年1月29日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出されたため、確認・本調査を実施した。

(2) 調査成果

旗竿地の竿部分と建物の周囲において污水管等を埋設する箇所と、敷地北側奥と敷地西側隅に雨水浸透槽を設置する箇所にA～Fのトレンチを設定した。敷地北側奥以外のトレンチでは30cmほどの耕作土の下部に状態の良い貝層が全面的に検出された。

幅の狭いトレンチの全面的に貝層が検出されているため、貝層の上面を検出した後は、2m間隔で設定したグリッド毎に掘削した土や貝などを一旦すべて土のう袋に入れて取り上げた。この際、先にトレンチの右半分を機械的に5cmごとに上から掘り下げ、セクションを確認した後に、左半分を層別掘削していった。土のうに取り上げた1,928袋の貝や土は4mmの目のふるいを用いてすべて

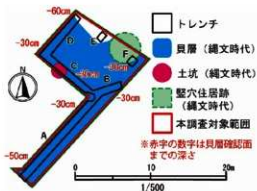


図3:遺構配置図

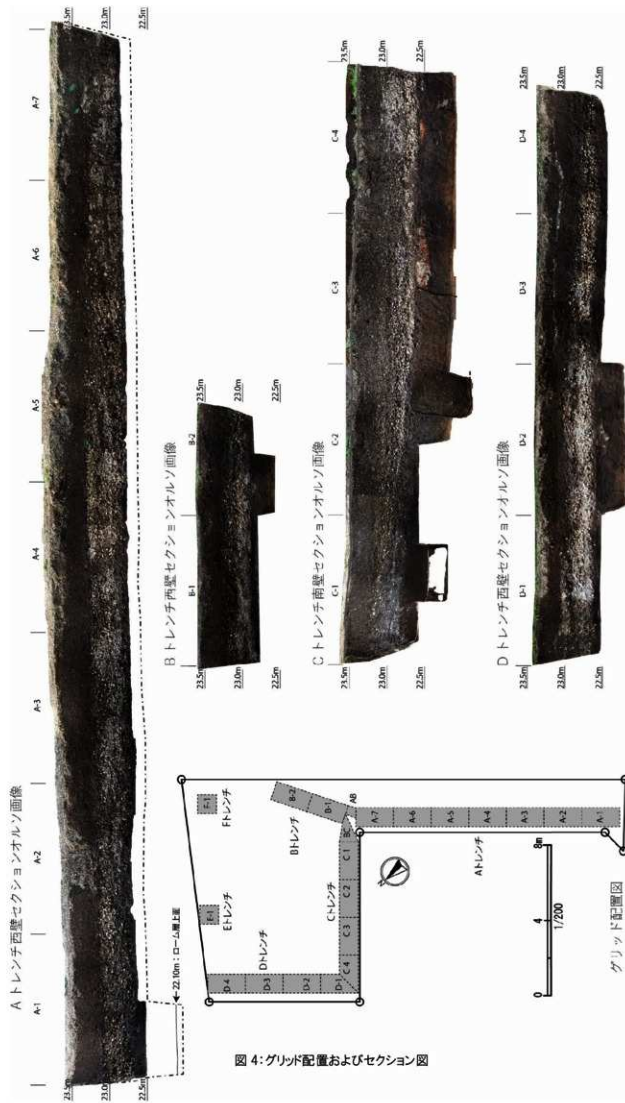


図 4: グリッド配置およびセクション図

ふるい、土器、石器、貝製品などの遺物だけでなく、獣骨や魚骨なども回収した。

9か所で30×30 cmの柱状に貝層サンプルを採取しており、貝層の詳細な分析を予定している。

基本層序は概ね、表土（耕作土）、混貝土層、二枚貝主体貝層、イボキサゴ純貝層、混貝土層、黒色土、ローム層となる。この間に破碎イボキサゴ層、灰集中エリア、焼土などが入り込む。貝層の厚さは平均して30 cmほどで、厚いところでも50 cmを超えない程度であった。

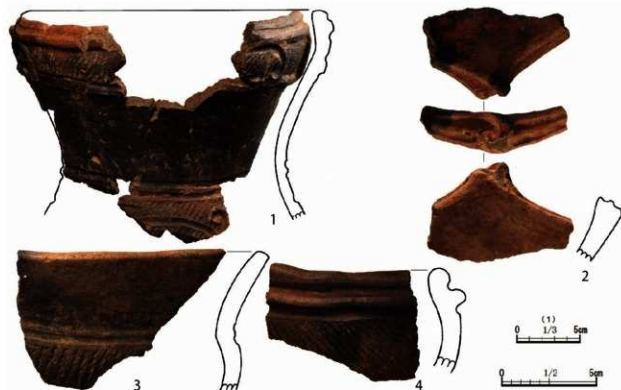
貝層の下部で検出された遺構は、Cトレンチで垂直な掘り込みと平坦な底部をもつ土坑が1基、Fトレンチで小穴1基のみであった。Fトレンチの小穴はその上部の貝層がレンズ状に堆積していること、深さ70 cmと非常に深くしっかりと掘り込まれていることなどから、竪穴住居跡に伴う柱穴と推測される。

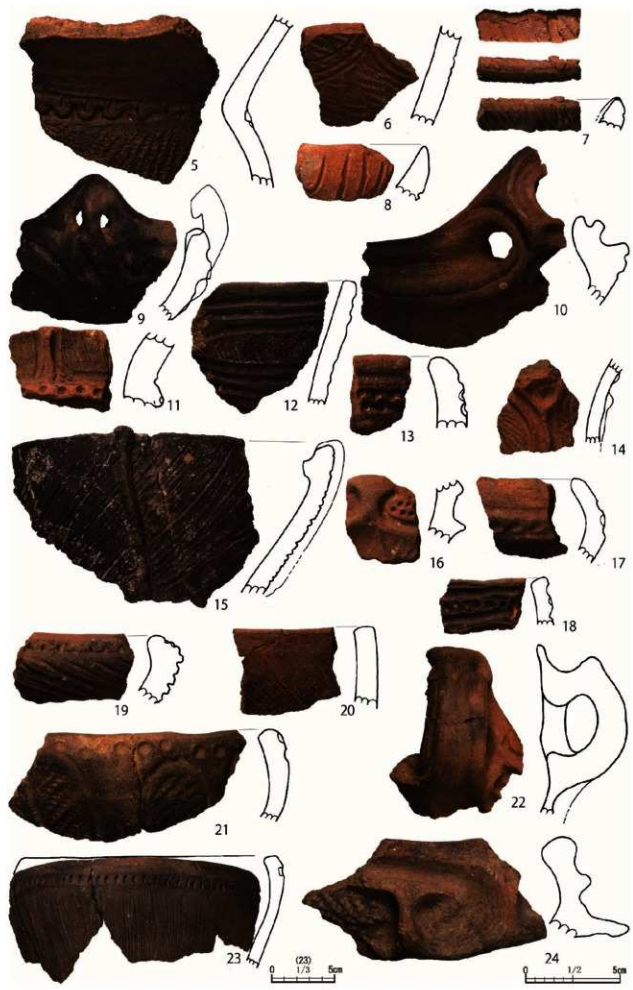
土器や石器などの人工遺物の出土量は近隣の貝塚と比して少ない。土器は加曾利EⅡ式を主体に曾利系や連弧文系などが混じるが、時期幅はそれほど感じられないため、遺跡の存続期間は非常に短かったのではないかと想定される。谷を挟んで北西にある同時期の月ノ木貝塚との関係性を語る上で非常に重要な遺跡である。

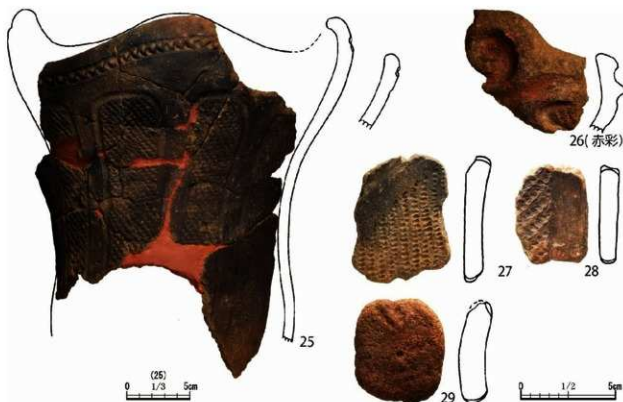
(3) 出土遺物

縄文土器2,291点、土師器18点が出土している。縄文土器のうち型式が判別できたもののほとんどは加曾利EⅡ式で、1,142点（曾利系の75点、連弧文系の46点を含む）となっている。

石器は磨製石斧1点、打製石斧2点、チャート石鏃3点、磨石類9点、石皿・台石3点。獣骨はイノシシの下顎骨や椎骨をはじめ小片が数十点、魚骨は検出されているが小さな骨が数十点程度といずれも非常に少ない。一方、貝刃や貝へらなどの貝製品の出土が多く、貝刃は59点、貝へらは61点確認されている。貝刃の素材はほぼハマグリで、カガミガイが1点混じる。貝へらの素材はアソガイ、ハマグリ、フジナミガイがみられた。







No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I	A-1,044	キャリバー系。隆帯+沈線区画。頸部無文。胴部沈線意匠文。RL
2	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I	A-2中	笠状口縁鉢。口唇上沈線。全面赤彩
3	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I ~ II	A-3下	無文口縁下段沈線区画。惣糸文
4	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I ~ II	A-4V層,198	キャリバー系。背割隆帯+沈線区画。RL
5	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I ~ II	A-4,134	無文頸部下段沈線+交互刺突区画。RL
6	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	A-5中	連弧文系。頸部。RL
7	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	A-5下	管判系。沈線2本組→隆帯貼付け
8	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	A-5上	管判系。沈線一本引。灰付着
9	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II?	A-6中	低い隆帯+沈線意匠文。LR。大木系?
10	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I	A-7V層,205	キャリバー系。背割隆帯区画・突起。LR
11	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I or II	B-1上	管判系の影響?隆帯区画上刺突。沈線区画内1本引き細沈線
12	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	A-6下	連弧文系の影響。惣糸文L
13	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	B-2中	連弧文系。沈線+交互刺突区画
14	縄文	土器	加賀利E	大木8b7	C-1上	E II並行。胴部に隆帯意匠文。表面赤く発色
15	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	B-2,040	管判系。2本引沈線口縁まで→隆帯貼付け。内面弱いナデ
16	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	C-2上	キャリバー系。隆帯+沈線区画。刺突充填
17	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	C-2下	連弧文系?沈線間に刺突
18	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I or II	C-2下	連弧文系?沈線間に刺突
19	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	C-4中ニ	管判系。沈線→隆帯貼付け。交互刺突
20	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I?	C-2下	角縁状無文口縁。RL→ナデ
21	縄文	土器	加賀利E	加賀利E III?	C-3,146	E III横位連弧管線またはE II連弧文系統
22	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I	F,116	キャリバー系。背割隆帯区画・突起
23	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	D-2,013	条線鉢。沈線区画。集合沈線
24	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	F,101	キャリバー系。高い隆帯区画。RL太
25	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II新	D-4,184	連弧文→横位連弧管線文。沈線+交互刺突。LRL
26	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	F下	キャリバー系。隆帯+沈線区画。外面全体赤彩
27	縄文	土製品	土器片縁	加賀利E II?	A-2中	胴部。切り込み両端。RL
28	縄文	土製品	土器片縁	加賀利E II	D-4下	胴部。切り込み両端。RL
29	縄文	土製品	土器片縁	加賀利E?	C-4下コ	切り込み両端。全面厚減顕著

(4) 今後の取り扱い

今回調査した部分以外は現地にて現状保存することができた。全体的に表土が 30 cmほど堆積し、保護層となっているが、今後新たに土木工事を行う際は細心の注意が必要となる。



1:Aトレンチ 完掘状況



2:Bトレンチ 完掘状況



3:Dトレンチ 完掘状況



4:Cトレンチ 完掘状況



5:Cトレンチ 遺構検出状況



6:Eトレンチ 完掘状況



7:Fトレンチ 完掘状況

2 へたの台貝塚②

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
へたの台貝塚	確認・本調査	4千教環セ第56号	2022年6月8日～ 2022年6月14日	5.0㎡ (133.44㎡)	木口 裕史
	市単費	中央区仁戸名町275-1、同6	住宅建築	株式会社千葉東建設	

*調査面積の下段()内は事業面積

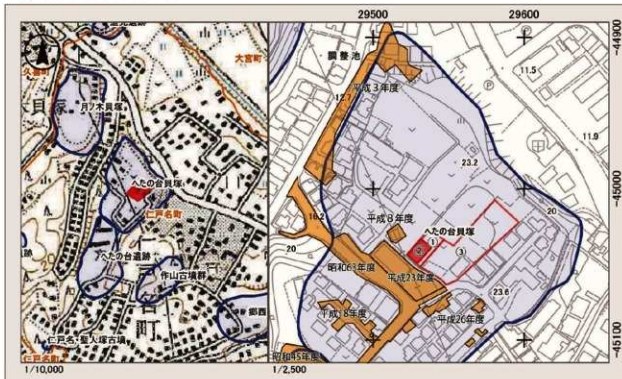


図5:へたの台貝塚②位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年4月22日付けで株式会社千葉東建設より住宅建築にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。事業地は令和3年度に確認・本調査を行った範囲の西隣であり、全体的に貝層が分布していることが明らかのため、その保護に向けて協議を重ねた結果、家屋部分と庭部分に関しては保護層を確保し、インフラ等の管を埋設する部分(5㎡)のみ調査することで協議が整った。これを受けて令和4年5月20日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼が提出されたため、確認・本調査を実施した。

(2) 調査成果

接道から家屋の基礎に接続する5×1mのトレンチを2mごとに区切り、接道側からG-1、G-2、G-3というグリッドを設定した。G-3は污水管の入る深度が30cm未満ということで貝層上面までの確認に留めた。

G-1、G-2グリッドでは良好な堆積の貝層が確認された。基本的な層序は表土(旧耕作土)、1層:混泥土層、2層:二枚貝主体層、3層:イボキサゴ層、4層:混泥土層、5層:黒色土層、ローム層となっている。

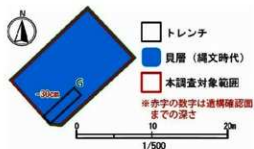
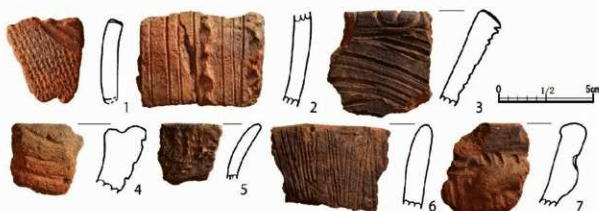


図6:遺構配置図

(3) 出土遺物

加曾利EⅡ式を主体に縄文土器146点、土師器8点、陶器1点、土器片錘、磨石類、貝刃、貝へらなどが出土している。



No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土製品	土器片錘	加曾利EⅡ	G-1 1層	胴部。切り込み両端。連弧文系
2	縄文	土器	加曾利E	加曾利EⅡ	G-1 2層	管料系。沈線一珠帯
3	縄文	土器	加曾利E	加曾利EⅡ	G-1 2層	管料系。粗い2本引き沈線
4	縄文	土器	加曾利E	加曾利EⅡ	G-1 3層	管料系。2本引き沈線
5	縄文	土器	加曾利E	加曾利EⅡ	G-1 3層	連弧文系か。LRL
6	縄文	土器	加曾利E	加曾利E	G-1 4層	集合沈線
7	縄文	土器	阿玉台	阿玉台Ⅳ	G-1 5層	雫帯意匠文。沈線・交互刺突。雲母多

(4) 今後の取り扱い

今回調査した部分以外は現地にて現状保存することができた。全体的に表土が30cmほど堆積し、保護層となっているが、今後新たに土木工事を行う際は細心の注意が必要となる。



1:Gトレンチセクション西壁オルソ画像



2:G-1グリッド掘削完了



3:Gトレンチ貝層上面検出状況

3 へたの台貝塚③

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
へたの台貝塚	確認調査	4千教壇セ第57号	2022年6月16日～ 2022年6月29日	101.0㎡ (1,382.95㎡)	木口 裕史
	国庫補助	中央区仁戸名町275-7	宅地造成	株式会社千葉東建設	

*調査面積の下段()内は事業面積

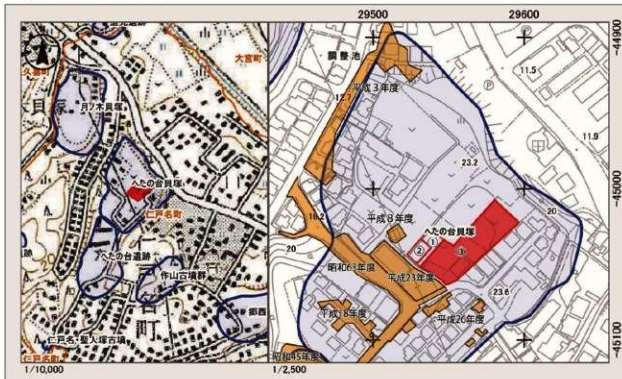


図7:へたの台貝塚③位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年4月26日付けで株式会社千葉東建設より宅地造成のための文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。事業地は令和3年度に確認・本調査を行った土地の東隣であり、貝層などが分布していることが明らかのため、その広がりを確認することで協議が整い、令和4年5月20日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

3×2mを基本に7か所のトレンチと道路が計画されている部分に幅1m、長さ60mのロングトレンチ1本を設定し、101㎡を調査した。事業地の北側と南側に厚さ20cmほどの貝層を検出し、へたの台貝塚が従来言われていた通り、馬蹄形貝塚であることが確認された。貝層で囲まれた中央部では縄文時代の土坑と古墳時代以降の竪穴住居跡を検出した。

トレンチ1では縄文時代の土坑1基と古墳時代以降の竪穴住居跡2軒が切り合って検出された。トレンチ3からは縄文土器の小片が数点と平坦な加工面をもつ三角柱の軽石製品(遺物14)が出土している。トレンチ4の土坑からは加曽利EⅡ式の深鉢の大型破片がまとめて出土した。

トレンチ7では厚さ20cmの表土をめくるとハマグリとイボキサゴの純貝層がトレンチ全面に広がる。この貝層の上面では大きめの土器片を含む灰が集中する範囲が検出された。

ロングトレンチ中央で検出した竪穴住居跡内からは、灰が詰まった甕や坏、小型甕などがまとめて出土した。(遺物20～23、写真6)

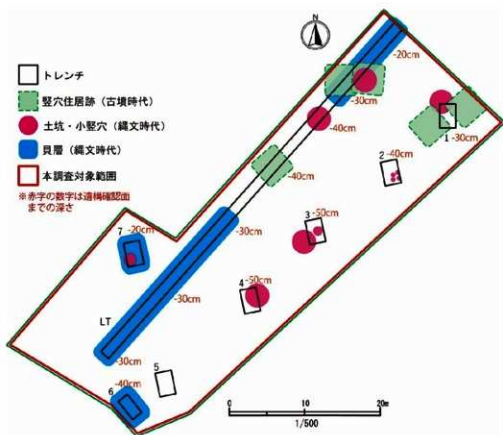


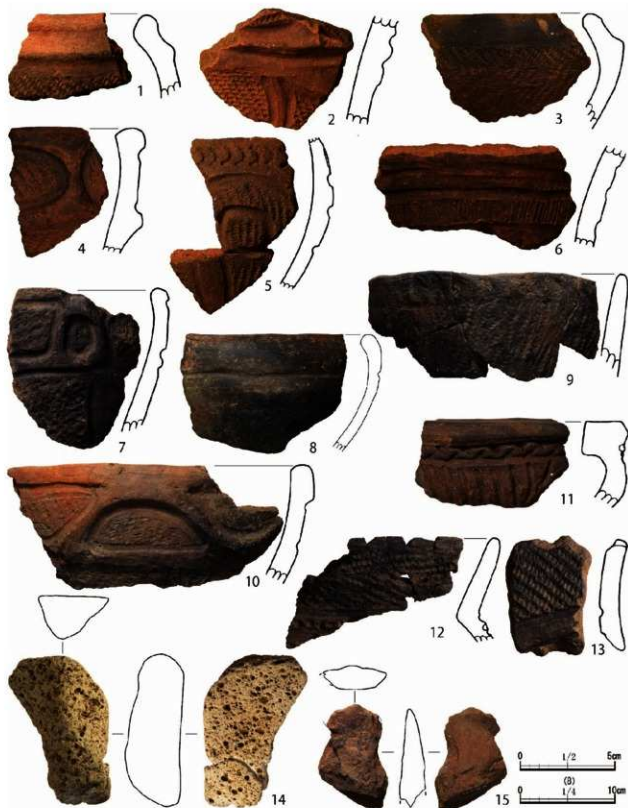
図 8: 遺構配置図

(3) 出土遺物

No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	1T	キャリアー系。隆帯+なぞり。RL
2	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	2T	キャリアー系。隆帯+沈黙区画。RL
3	縄文	土器	加賀利E	加賀利E III	2T	素文。RL
4	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	3T	キャリアー系。隆帯+沈黙区画。RL
5	縄文	土器	加賀利E	加賀利E III	4T IK	横位連繋弧線文系か。半截竹製刺突。RL前段多条
6	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	4T	連弧文系。2本組集合沈黙
7	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	7Tサブ	キャリアー系。隆帯+沈黙区画。LRL
8	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	7T	素文鉢。沈黙区画へ口唇上赤彩
9	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	7T	素文。RL
10	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	LT-3	キャリアー系。隆帯+沈黙区画。RL細い巻
11	縄文	土器	加賀利E	加賀利E I	LT-6サブ	分厚い口縁。沈黙+交互刻突区画。集合沈黙。雷母やや多
12	縄文	土器	加賀利E	加賀利E	LT-7	連弧文系? RL多方向重畳
13	縄文	土器	加賀利E	加賀利E II	LT-1	キャリアー側部。RL
14	縄文	石器	軽石製品	-	3T	略三角柱。広い平滑な擲り面。研磨剤採取か
15	縄文	石器	打製石斧	分銅形	2T	側縁抉り〜刃部一部。破損後被動赤変
16	古代	土師器	坏	8C初期以前	1T IK1	非ロクロ坏 外面:細かいヘラケズリ。内面:ミガキ
17	奈良	土師器	鉢?	8C前半	LT-18	外面:口縁ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ
18	奈良	土師器	壺	8C前半	LT-18	外面:口縁〜頸部に接合痕。体部ヘラケズリ。内面:ナデ。頸部以下黒色物質塗布
19	奈良	土師器	壺	8C前半	LT-19	外面:体部粗いヘラケズリ。内面:ヨコナデ
20	平安	土師器	坏	9C後半	LT-25	ロクロ成形。やや厚手。外面:体部下半をヨコヘラケズリー上半をヨコナデ。底部静止ヘラ切り
21	平安	土師器	小型壺	9C後半	LT-25	ロクロ成形。口縁〜体部上段ヨコナデ。体部ヨコヘラケズリ。内面:やや強いロクロ目
22	平安	土師器	壺	8C後半〜9C前半	LT-25	外面:口縁やや上につまみ出し〜ヨコナデ。
23	古代	土師器	壺	-	LT-25	外面:口縁〜頸部ヨコナデ。体部タテヘラケズリ。内面:頸部ヨコヘラケズリ。接合痕。体部押圧痕

縄文土器 411 点、土師器 56 点、須恵器 5 点、打製石斧、軽石、磨石類、支脚などが出土している。
縄文土器のうち型式が判別できたもののほとんどは加曾利 EII 式で 179 点、その他に曾利系、連弧文
系などがみられた。

土師器は古墳時代末から平安時代の甕や坏などが出土している。



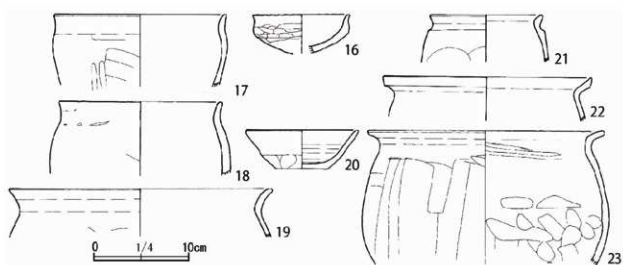


図 9:へたの台貝塚出土土師器

(4) 今後の取り扱い

広範囲に貝層や古墳時代以降の竪穴住居跡などが確認されているため、事業地全体を本調査対象範囲とした。盛土等で遺跡の保護が可能かどうか、協議を継続している。



1:トレンチ1 遺構検出状況



2:トレンチ3 遺構検出状況



3:トレンチ7 貝層上面灰集中検出状況



4:ロングトレンチ南側 貝層検出状況



5:ロングトレンチ中央 竪穴住居跡検出状況



6:ロングトレンチ中央 竪穴住居跡内遺物出土状況



7:ロングトレンチ中央 小竪穴半載状況



8:ロングトレンチ北側 貝層および遺構検出状況

4 立木南遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
立木南遺跡	確認調査	2千教理セ第501号	2021年6月16日～ 2021年6月29日	470㎡ (3,322㎡)	山下 亮介
	市単費	若葉区加曾利町 947-2、954-3、同6	宅地造成		個人

*調査面積の下段()内は事業面積

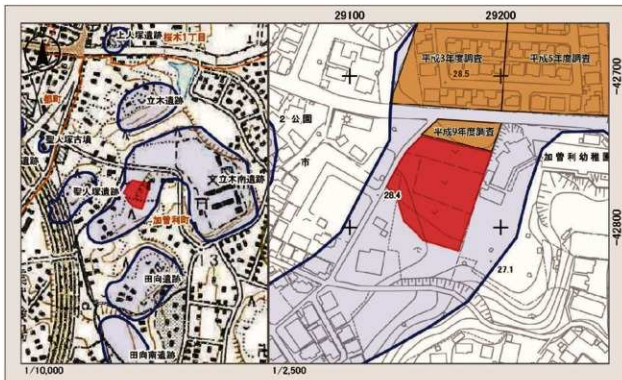


図 10: 立木南遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和2年11月18日付けで個人から宅地造成計画を前提とした「埋蔵文化財の所在の有無の確認及びその取扱いについて」の依頼があり、試掘調査を実施した結果、古墳時代の竪穴住居跡を確認し、遺跡有回答を通知した。それに伴い令和3年3月2日付けで文化財保護法第93条に基づく届出、令和3年4月28日および5月26日付けで3名の事業主より埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

調査は、対象地に公共座標に合わせた10mのグリッドを設定し、2m×2.5mのトレンチを56箇所に設定して実施したが、設定が困難な場所については任意のトレンチとした。また調査の状況により一部のトレンチについては、拡張して調査した。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1:表土層(暗褐色土)、2:褐色土層、3:黒褐色土層及び類似層、4:褐色土層、5:明褐色土層(ソフトローム層)からなる。1層は耕作土で0.25m～0.5mを厚さ測り、東側が厚く堆積する傾向を示している。遺構は、4層の上面で確認でき、表土上面より0.45mから0.6mの深さで確認した。

立木南遺跡は、西から東に張り出す台地上にあり、一部において発掘調査が行われている。昭和60・61年度に遺跡の東端部で実施された調査では、古墳時代の竪穴住居跡7軒、土坑1基、奈良時代の竪穴住居跡10軒、平安時代竪穴住居跡21軒、土坑6基、奈良・平安時代掘立柱建物跡13棟、

時期不明竪穴住居跡 8 軒、土坑 8 基、溝跡 3 条を検出し、平成 3・5 年度には遺跡中央部北側と中央部西側の一部において、平安時代竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが確認された。平成 5 年度の確認調査範囲は、平成 7 年度に千葉大学考古学研究室による本調査が行われ旧石器時代石器集中地点 2 箇所、奈良時代竪穴住居跡 4 軒、掘立柱建物跡 7 棟、土坑 18 基などが調査されている。さらに平成 9 年度には本事業地の北側で確認調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡と奈良・平安時代の掘立柱建物跡が確認された。

今回は対象地の中央部北側で 2 軒、東側中央で 1 軒、南側で 2 軒の計 5 軒の古墳時代竪穴住居跡を確認した。このことから遺構の密集域が遺跡の東側にあり、遺跡中央付近では希薄な状態を示している。今回の調査範囲は遺跡の南西側の台地基部の縁辺付近に当たり、遺構の展開が更に南に広がる可能性を示している。

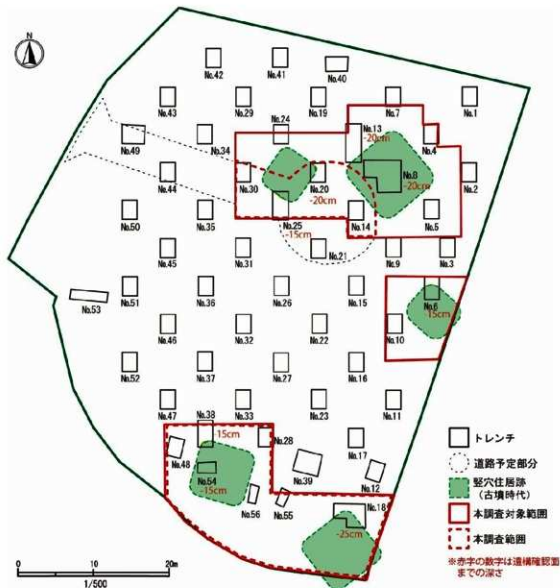
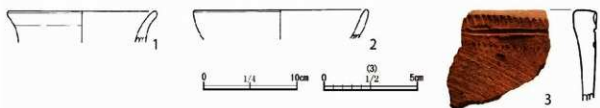


図 11: 遺構配置図

(3) 出土遺物

縄文土器 1 点、古墳時代の土師器 37 点が出土している。縄文土器は連続刻み文が入った後期の安行 1 式。土師器は住居と思われる遺構確認面上層で主に出土している。



No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	土師器	盃	-	6トレ	外面：口沿ヘラナデ→ヨコナデ。内面：ヨコナデ。胎土に赤褐色のスコリア複散。
2	古墳	土師器	杯	後期 7世紀以前	43トレ	外面：ヨコナデ、赤彩。内面：変化、剥離により調整不明。一部赤彩残存。非ロクロ杯。
3	縄文	土器	後期安行	安行1	40トレ	粗製土器。附点組線文系。条線、横位沈線区画、連続刻み

(4) 今後の取り扱い

古墳時代の竪穴住居跡 5 軒を確認したため、その範囲 856 m²について本調査対象範囲とした。その後の取り扱いとして、事業を実施するにあたり遺構に影響を及ぼす 470 m²については本調査を実施し、残りの 386 m²は遺構確認面上に 0.3mの保護層を確保したうえで遺構を保存し、影響の無いように工事を行うことで合意した。

本調査は令和 3 年 10 月 25 日から令和 3 年 12 月 10 日にかけて行われ、令和 4 年度末に報告書刊行予定。



1:発掘調査風景



2:トレンチ 6 遺構検出状況



3:トレンチ 20 遺構検出状況



4:トレンチ 38 遺構検出状況

5 居寒台遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
居寒台遺跡	確認調査	3千教理セ第186号	2021年8月31日～ 2021年9月15日	85.0㎡ (869.0㎡)	山下 亮介
	市単費	花見川区浪花町907-4	宅地造成・住宅建築	株式会社コネク	

*調査面積の下段()内は事業面積

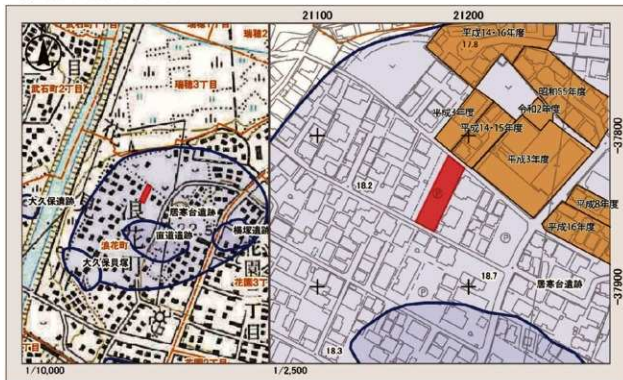


図 12: 居寒台遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和3年7月26日付けで株式会社コネクトから宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出されたため、試掘調査を実施した。その結果、古墳時代の溝および土坑を確認したため発掘調査指示で事業者へ通知した。その後の事業者との協議により確認調査を実施することで協議が整い、令和3年8月24日付け埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査が実施された。

(2) 調査成果

調査は対象地の敷地に合わせた10mのグリッドを設定し、2m×2.5mのトレンチを17箇所に設定して実施した。その結果、対象地のほぼ全域において古墳時代の遺構が確認された。確認された遺構は竪穴住居跡13軒、土坑1基。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1:表土層(灰白色土)、2:黄褐色土層、3:褐色土層、4:褐色土層、5:褐色土層(ソフトローム層)からなる。

1層は碎石主体、2層は砂主体の盛土層、1～2層の厚さは0.35m～0.5mを測る。3層は砂質土、4層はローム粒子を含み、共に0.1～0.2mの厚さで堆積している。遺構は5層の上面で確認でき、現表土上面より0.6mから0.7mの深さで確認した。

居寒台遺跡は、花見川河口付近の東岸に東から西に張り出す台地上先端部にあり、部分的に発掘調査が行われている。対象地の道路を挟んだ北東部では、昭和から平成にかけて幾度かの発掘調査が行われている。特に平成3年度に本調査を実施した北東隣接地では、旧石器時代の遺物集中区1箇所、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡30軒、掘立柱建物跡20棟、時期不明溝状遺構3条を確認し、遺構が集中した状態で展開していることが明らかとなった。

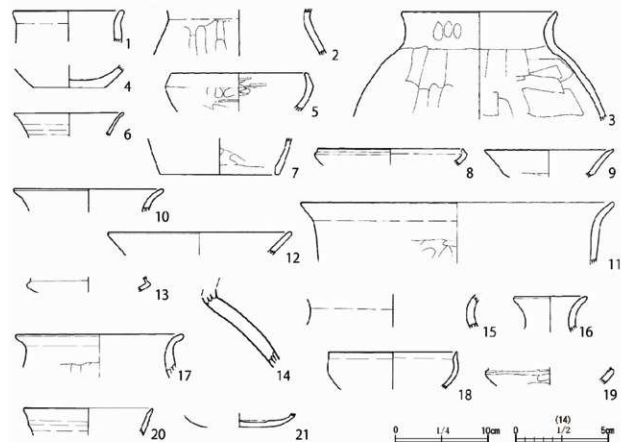
今回の調査結果は、隣接地で認められた遺構の密集域が対象地まで広がっており、特に古墳時代の遺構密度が高いことを示している。

(3) 出土遺物

時期不明の縄文土器2点、古墳時代の土師器341点、須恵器3点、中近世の陶器類14点が出土している。土師器は7世紀末から8世紀初頭、器種は甕、坏、高坏、甗、鉢などがみられるが、甕が95%を占めている。



図13:遺構配置図



No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	奈良	土師器	壺	8C初頭	1トレ3~5層	外面:ヨコナデ。内面:ヨコナデ
2	奈良	土師器	壺	-	1トレ3~5層	外面:体部ヨコナデ-胴部タテヘラケズリ。内面:ヨコヘラケズリーナデ
3	奈良	土師器	壺	-	3・4層	外面:口唇部強くヨコナデ。工具で調整。胴部タテヘラケズリー胴部ヨコナデ。 内面:口縁ヨコナデ。胴部工具によるヨコナデ。胎土:やや大型の白砂粒多数
4	奈良	土師器	鉢	8C初頭以前	1トレ	外面:ナデ。内面:ヨコヘラケズリーミガキ
5	奈良	土師器	坏	-	1トレ	外面:口縁ヨコナデ。体部粗いヨコヘラケズリ。内面:ヘラミガキ。黒色処理
6	奈良	須恵器	長頸壺?	-	2トレ	
7	奈良	土師器	甗	-	4トレ	外面:ヘラケズリ。内面:ヘラケズリ
8	古墳	土師器	坏	7C末~8C初頭	5トレ	蓋模倣坏。外面:口縁ヨコナデ。体部ヘラケズリ?内面:ナデ。黒色処理
9	古墳	土師器	高坏?	6C後半	5トレ	外面:口縁ヨコナデ。体部料めヘラケズリ。口縁と体部の境に明確な棲あり。 内面:ヨコナデ。黒色処理
10	奈良	土師器	壺	-	5トレ	外面。内面:ヨコナデ
11	古墳	土師器	壺	7C末~8C初頭	5トレ	外面:胴部ヘラケズリー口縁~頸部ヨコナデ。内面:口縁ヨコナデ。胴部ヘラケズリ
12	奈良	土師器	壺	-	7トレ	外面:ヨコナデ。下底ヘラケズリ。内面:ヨコナデ
13	古墳	土師器	坏	7C末~8C初頭	8トレ	外面:口縁ヨコナデ。体部ヘラケズリ?内面:ミガキ。黒色処理
14	奈良	土師器	壺	-	10トレ	外面:上底強くナデ。ヘラケズリ。内面:ヘラナデ
15	奈良	土師器	壺	8C初頭	10トレ	外、内面:弱くナデ。胎土:白砂粒多数。
16	奈良	土師器	壺	8C初頭	10トレ	外、内面:ヨコナデ
17	奈良	土師器	壺	8C初頭	14トレ	外面:口縁ヨコナデ-胴部タテヘラケズリ。黒色処理。内面:口縁ヨコナデ
18	古墳	土師器	坏(鉢?)	7C末~8C初頭	14トレ	赤彩。外面:口縁ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面:ヨコナデ
19	古墳	土師器	坏	6C後半	14トレ	外面:体部ヘラケズリ。内面:ミガキ
20	中・近世	土師器	不明	中・近世以降	16トレ	外面:口縁下に横沈線が平行に2本施文。ヨコナデ。内面:ヨコナデ
21	奈良	土師器	坏	-	17トレ	外面:回転ヘラケズリ調整。内面:ナデ
22	古代	土製品	支脚	-	2トレ3・4層	



図 14: 居寒台遺跡出土遺物

(4) 今後の取り扱い

調査の結果から対象地 869 m²の全域について本調査対象範囲とした。そのため事業を実施する際には対象地全域において遺構確認面上に30 cmの保護層を確保したうえで遺構を保存し、影響の無いように工事を行うことで合意した。



1:調査風景



2:トレンチ 1 遺構検出状況



3:トレンチ 4 遺構検出状況



4:トレンチ 6 遺構検出状況



5:トレンチ 10 遺構検出状況



6:トレンチ 12 ピット遺構検出状況

6 高崎台遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
高崎台遺跡	確認調査	3千教埋セ第462号	2022年3月22日～ 2022年3月31日	115.0㎡ (1,209.12㎡)	松田 光太郎
	市単費	中央区星久喜町 315の一部	宅地造成	個人	

*調査面積の下段()内は事業面積

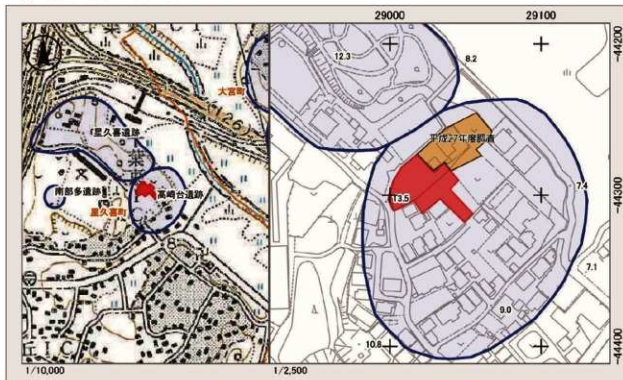


図 15: 高崎台遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年1月31日付けで宅地造成を計画する個人から文化財保護法第93条に基づく届出が提出されたため、試掘調査を実施した。その結果、覆土に貝層が混じる竪穴住居跡を検出したため、工事着手前の発掘調査指示を通知した。その後、確認調査を行うことで協議が整い、令和4年3月12日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて確認調査を実施した。

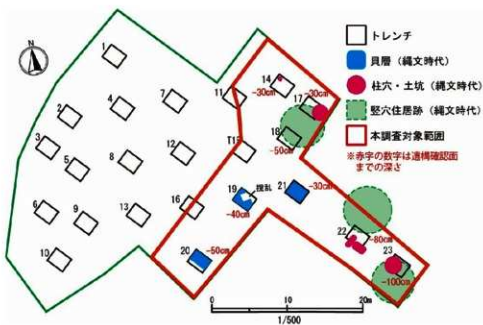
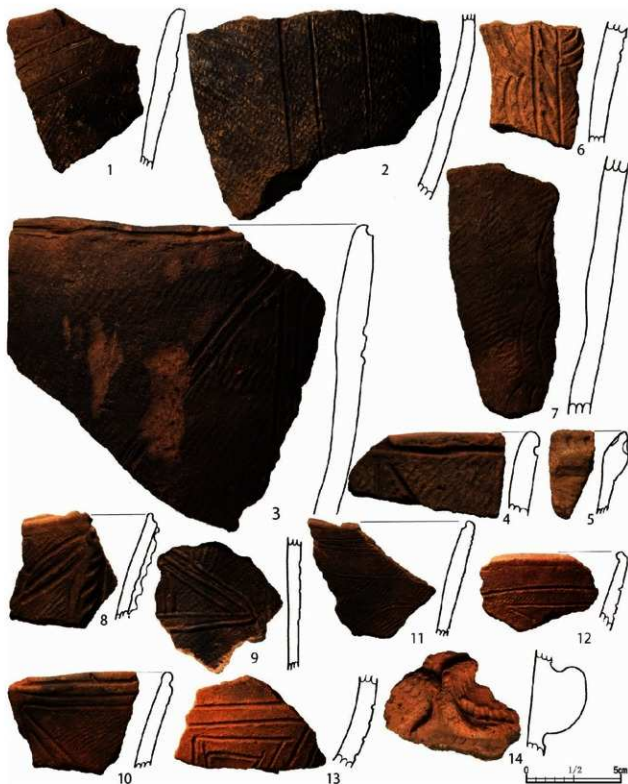


図 16: 遺構配置図

(2) 調査成果

縄文時代後期の竪穴住居跡3軒、土坑・柱穴5基、貝層6か所を確認した。トレンチ17から20を境に西側の台地上平坦部と東側の斜面部に分かれ、この平坦部際から後期前葉の竪穴住居跡や貝層を検出した。貝層はハマグリ、イボキサゴを主体として、シオフキ、バカガイ、アサリ、カガミガイ、マガキ、バイ、アカシシなどで構成されている。採取した貝サンプルの分析結果は別の機会に報告予定。



(3) 出土遺物

縄文時代後期の堀之内式土器を主体とした縄文土器 265 点、打製石斧、磨石類、ヘラ状貝製品、人骨などが出土している。

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	18トレ	波状口縁に沿う 2 本組斜行沈線 4 条。LR
2	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	18トレ	縦位沈線、RL
3	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	19トレ	平縁。口縁横位沈線区画・縦・斜行沈線。LR
4	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	19トレ 貝層	平縁。口縁横位沈線区画・縦・斜行沈線。LR
5	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	19トレ	内外に肥厚する口縁。内外面に刺突
6	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	21トレ	縦沈線区画内に短沈線、弧状沈線意匠文 3 条。縄文不明
7	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	21トレ	2 本組弧状沈線意匠文。無節 L
8	縄文	土器	堀之内	堀之内 1	21トレ	波状口縁。口唇直下横位沈線区画。縦刻み隆帯区画、沈線意匠文 3 条。LR
9	縄文	土器	堀之内	堀之内 2	21トレ	沈線意匠文 3 条。LR
10	縄文	土器	堀之内	堀之内 2	22トレ カツ	平縁。口縁横位沈線区画、縦・斜行沈線。LR
11	縄文	土器	堀之内	堀之内 2	22トレ	平縁、内面沈線。細沈線横位区画・意匠文。LR
12	縄文	土器	堀之内	堀之内 2	22トレ カツ	平縁、口唇内屈。平行沈線内 LR 充填
13	縄文	土器	堀之内	堀之内 2	22トレ カツ	沈線意匠文内 LR 充填
14	縄文	土器	阿玉台	阿玉台 III		隆帯+幅広角弁文による棒状文

(4) 今後の取り扱い

貝層と遺構が集中する範囲を中心に 462 m²について本調査対象範囲とし、協議を重ねた結果、30 cm以上の保護層を設け、現地にて現状保存することとなった。



1:調査風景



2:トレンチ 1 遺構検出状況



3:トレンチ 17 貝層検出状況



4:トレンチ 19 遺構検出状況

7 聖天遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
7 L20241700 聖天遺跡	確認調査	4千教塚セ第42号	2022年5月31日～ 2022年6月7日	44.3㎡ (499.82㎡)	木口 裕史
	市単費	若葉区多部田町 65-1の一部、同7	店舗建設	個人	

*調査面積の下段()内は事業面積

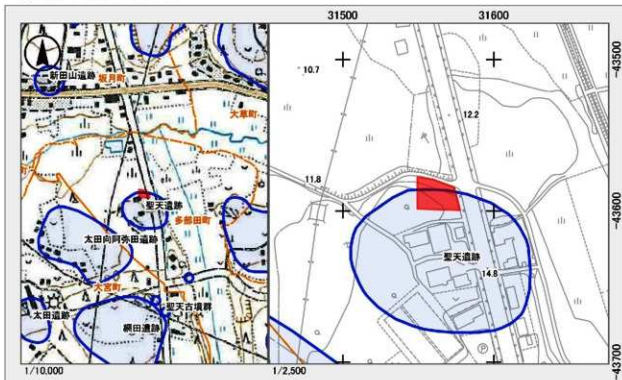


図 17: 聖天遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年4月18日付けで店舗建設を計画する個人から文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。これを受けて行われた試掘調査にて、古墳時代と思われる竪穴住居跡を検出したため、工事着手前の発掘調査指示を通知。その後、確認調査を行うことで協議が整い令和4年5月26日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて確認調査を実施した。



図 18: 遺構配置図

(2) 調査成果

3×2mを基本とし、事業地内に9か所のトレンチを設定した。北側と東側は県の工業用水の工事の際に大きくかく乱されており、ハードルームまで削られているうえ、表土も強く転圧されている。

トレンチ2、3、5、6、8では旧表土の褐色土が確認できたが、遺構が確認されたのは、トレンチ6の竪穴住居跡のみであった。床面直上には焼土が広く検出され、その中から鉄滓や、ほぼ完形の

土師器の坏が出土している。本遺跡では過去に調査歴がなく、詳細が不明であったが今回の調査にてその一端を明らかにすることができた。

(3) 出土遺物

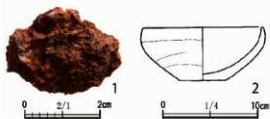


図 19:トレンチ 6 出土 土師器坏

No.	時代	種別 1	種別 2	種別 3	出土地点	備考
1	古墳	金属類	鉄滓	-	トレンチ6	
2	古墳	土師器	坏	8C初頭	トレンチ6	内面：赤彩、ナデ。外面：口縁ナデ、体～底部ヘラケズリ。口縁部に2か所欠けがあるが、注ぎ口としてしばらくの間、使用されていた様子。

縄文土器 2 点、土師器 25 点、鉄滓が出土。縄文土器は前期の条痕文系のもので、台地のの上からの流れ込みか。トレンチ 6 で出土した土師器は口縁が 2 か所欠けているが、摩耗している様子からこの状態で長く使用されていたと思われる。

(4) 今後の取り扱い

古墳時代の竪穴住居跡が確認された 54 m²について本調査対象範囲とした。協議の結果、遺構確認面上に 30 cm の保護層を確保して遺構を保存し、工事を行うことで合意した。



1:調査風景 事業地北から



2:調査風景 事業地東から



3:トレンチ No.6 遺構検出状況



4:トレンチ No.6 土師器坏出土状況

8 柳沢遺跡・玄藤遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
柳沢遺跡・ 玄藤遺跡	確認調査	4千教塚セ第52号	2022年6月28日～ 2022年7月28日	342㎡ (4,083㎡)	佐藤 洋
	市単費	若葉区小倉町 965-1、1024-2、1023-5	博物館および周辺施設 整備	千葉市	

*調査面積の下段()内は事業面積

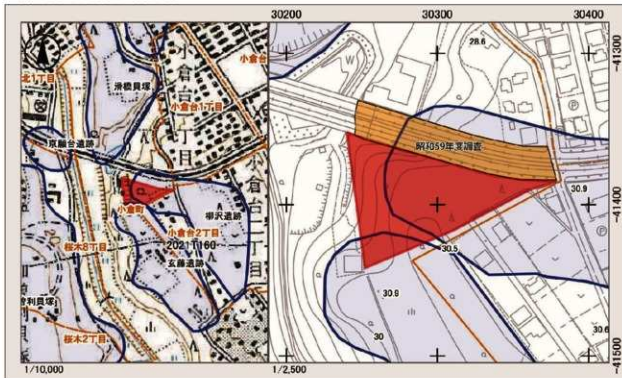


図 20: 柳沢遺跡・玄藤遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年4月25日付けで、千葉市教育委員会教育長より特別史跡加曾利貝塚新博物館整備事業に伴う文化財保護法第94条に基づく通知がなされた。事業地の北側では昭和59年に本調査が実施され、縄文時代の遺構等が確認されている。本事業地においてもその存在が予測されるため、本調査の要否および範囲を確定するための確認調査を行うことで協議が整い、令和4年6月24日付けの埋蔵文化財発掘調査依頼を受けて確認調査を実施した。

事業地は柳沢遺跡から玄藤遺跡にまたがる17,634㎡であるが、今年度はその内4,083㎡を対象として確認調査を実施した。

(2) 調査成果

事業地は樹木が林立しており、それを避けながら調査区の全域をカバーするように67か所のトレンチを設定した。基本的な層序は、1：表土層、2：黒褐色土層（遺物包含層）、3：暗褐色土層、4：明褐色土層（ソフトローム層）であり、地点によって層厚は異なる。とくに3層は台地の奥側の東へ行くほど厚く堆積する傾向がみられた。

今回の調査では事業地の広範囲に縄文時代中期前半（阿玉台・勝坂後半期）の遺物包含層が広がっていることが確認されたほか、同時期の竪穴住居跡8軒、土坑39基、ピット84基、焼土範囲1か所が検出され、同時期の集落の存在が確認された。加曾利北貝塚等の中期大型貝塚が成立する直前期にあたり、加曾利貝塚の成立を考えるうえでも重要な遺跡と考えられる。

(3) 出土遺物

出土遺物はすべて縄文時代に属するもので、土器 317 点、土器片鍾 4 点、打製石斧 2 点、磨石類 3 点、石皿 1 点、剥片類 7 点が出土している。縄文土器は中期の阿玉台式から勝坂式が主体で 259 点を占める。数は少ないが前期の諸磯式や中期の加曾利 EII 式、後期の称名寺式なども出土している。

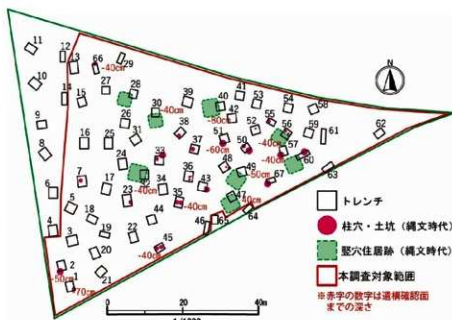
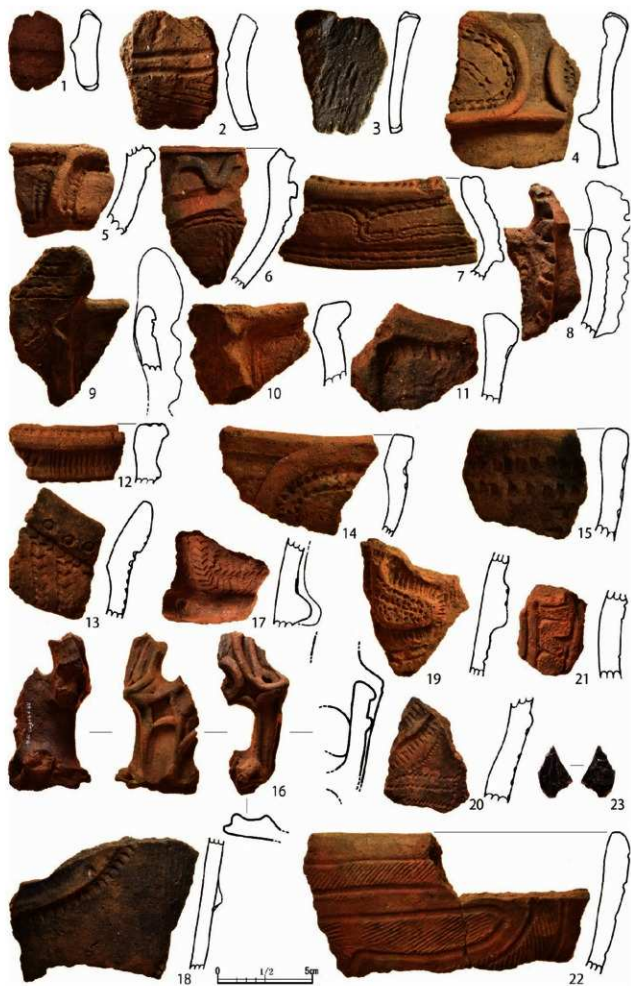


図 21: 遺構配置図

No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土製品	土器片鍾	阿玉台 I~II	トレンチ60	完形、両端に切り込み
2	縄文	土製品	土器片鍾	勝坂~E I?	トレンチ31	完形、両端に切り込み
3	縄文	土製品	土器片鍾	阿玉台	トレンチ38	完形、両端に切り込み
4	縄文	土製品	土器片鍾	阿玉台 III	トレンチ47	完形、両端に切り込み
5	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台	トレンチ51	隆帯+2条角押文による杓状文
6	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ51	隆帯区画内に蛇行隆帯、有節沈線意匠文
7	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ48	隆帯+有節沈線区画内に有節平行沈線意匠文
8	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ25	刻み隆帯~突起
9	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ59	刻み隆帯~突起。有節平行沈線
10	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ35	刻み隆帯~突起。有節平行沈線。雲母多
11	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 III	トレンチ31	隆帯+幅広角押文。雲母多
12	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II~III	トレンチ51	口唇上と横位隆帯に有節平行沈線。短沈線充填
13	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台・勝坂	トレンチ60	肥厚口唇下端に刺先状角押文。口縁に円形刺突
14	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 II	トレンチ60	隆帯+有節沈線区画
15	縄文	土器	阿玉台・勝坂	阿玉台 III	トレンチ52	爪形刺突列横・縦区画
16	縄文	土器	中期中葉	橋倉 1	トレンチ24	口縁につく高い突起。貼付隆帯意匠文
17	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ25	隆帯+刺先状角押文区画
18	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ25	隆帯+刺先状角押文区画。縦沈線
19	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ42	隆帯+幅広角押文区画。隆帯上に刺突
20	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ42	隆帯+幅広角押文区画。幅狭連続刺突
21	縄文	土器	阿玉台・勝坂	勝坂	トレンチ8	管内底もつ沈線区画内に蛇行文、LR
22	縄文	土器	称名寺	称名寺 1	トレンチ52	平行沈線内にLR充填
23	縄文	石器	剥片		トレンチ59	黒曜石小片

(4) 今後の取り扱い

今回の確認調査で事業地の広範囲に遺構が分布していることが確認されたため、攪乱や削平で遺構が確認されなかった部分を除き、3,560 m²を本調査対象範囲とした。本調査は令和 5 年度に実施する予定となっている。





1:基本層序



2:トレンチ 30 セクション



3:トレンチ 32 セクション



4:トレンチ 35 遺構検出状況



5:トレンチ 45 遺構検出状況



6:トレンチ 45 遺物出土状況



7:トレンチ 49 遺構検出状況



8:トレンチ 60 遺構検出状況

9 おとうしせいせき ひおくびだいせき 和唐地遺跡・琵琶首台遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
和唐地遺跡・ 琵琶首台遺跡	確認調査	4千教壇セ第26号	2022年7月14日～ 2022年8月15日	315.0㎡ (8609.84㎡)	木口 裕史
	国庫補助	中央区星久壽町938、954～959、938～ 954地先赤道、956地先赤道	宅地造成	有限会社開成	

*調査面積の下段()内は事業面積

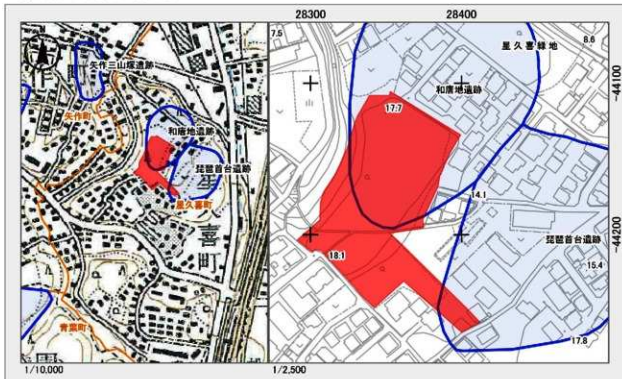


図 22: 和唐地遺跡・琵琶首台遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年4月12日付けで有限会社開成から宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出され、試掘調査を行ったところ和唐地遺跡に掛かる範囲において、古墳時代の竪穴住居跡が検出された。これを受けて、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、令和4年6月7日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

事業地は深い樹木や竹林に覆われており、グリッドを設定して調査を行うことが困難であったため、樹木の合間を伐開しながら、トレンチを掘削することとなった。トレンチは3×2mを基本とし、53カ所、315㎡の調査を実施した。

和唐地遺跡の範囲では事業地の北側の宅地造成の際の試掘調査で古墳時代前期の竪穴住居跡が確認されている。今回の調査でも遺構密度は低いものの広範囲に古墳時代の遺構が分布している状況が確認された。古墳時代の竪穴住居跡3軒、円形周溝墓1基、溝状遺構2基、土坑2基、ピット22基など。

琵琶首台遺跡の範囲では、宅地造成の際に試掘調査が幾度か行われているが、これまでに埋蔵文化財は確認されていない。本事業地にかかるエリアでも、既存建物の解体時にローム層まで攪乱されており、縄文土器や土師器を表採することができたが、埋蔵文化財を確認することはできなかった。

これによって、和唐地遺跡にかかる3,300㎡が本調査対象範囲となった。

(3) 出土遺物

和唐地遺跡では縄文土器9点、弥生土器2点、土師器61点、旧石器時代の剥片1点、縄文時代の打製石斧1点が出土。琵琶首台遺跡ではトレンチ周辺で縄文土器の底部1点と土師器5点を表採した。

和唐地遺跡で出土した土師器のうち、トレンチ34で出土したもの(遺物6)には、内面にくっきりと糊痕が残されていた。

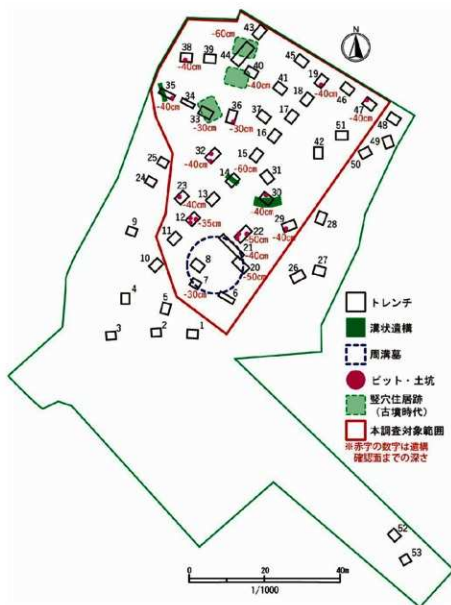
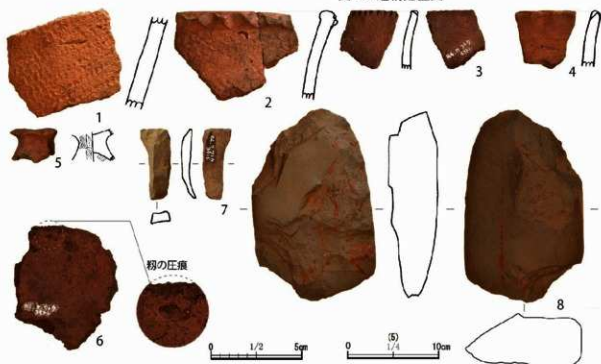


図 23:遺構配置図



No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土器	羽状縄文土器	関山or黒浜	表塚	LR
2	縄文	土器	加曾利B	加曾利B2	トレンチ21	総縄文系平縁、内面沈線。口唇直下に刻み残存。LR
3	弥生	土器	壺	宮ノ台	トレンチ43	内面ハケ、口唇部刻み、外面ナデ。
4	弥生	土器	壺	宮ノ台	トレンチ44暨 穴建物跡内	内面ハケ、口唇部表裏押捺、外面板状工具によるナデ。
5	古墳	土師器	高坏	-	表塚	台部。外面：ナデ強。
6	古墳	土師器	壺	-	トレンチ34	柄痕あり。
7	旧石器	石器	削片	-	トレンチ34	
8	縄文	石器	打弁	-	表塚	折れた磨製石斧に刃をつけて再利用している。

(4) 今後の取り扱い

遺跡の保護について協議を重ねてきたが、大幅な計画変更は難しく、令和4年12月上旬から本調査対象範囲の内、約3,000㎡について本調査を実施することとなった。



1:調査風景



2:トレンチ 8 古墳周溝検出状況



3:トレンチ 14 溝状遺構検出状況



4:トレンチ 20, 21 古墳周溝検出状況



5:トレンチ 40 竪穴住居跡検出状況



6:トレンチ 44 竪穴住居跡検出状況

10 地蔵作遺跡

遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
	事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
10 地蔵作遺跡	確認調査	4千教理セ第177号	2022年8月31日～ 2022年9月14日	164.0㎡ (2,043㎡)	木口 裕史
	国庫補助	花見川区長作町 959-1、1265-1、同3	店舗建設	個人	

*調査面積の下段()内は事業面積

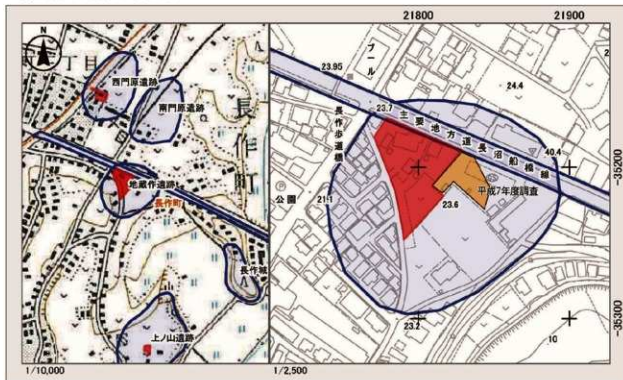


図 24: 地蔵作遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年7月7日付けで個人から店舗建設のための文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査を行ったところ中世から近世にかけてと思われる土坑が列をなし溝状に並ぶ遺構1条を確認した。これを受けて、埋蔵文化財の広がりを確認することで協議が整い、令和4年8月19日付けで埋蔵文化財発掘調査依頼が提出され、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

10m グリッドを設定し、約3×3mのトレンチを16カ所、3×1mを1カ所、5×2mを1カ所の計18カ所、約164㎡の調査を行ったところ、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、中世から近世の土坑列を確認した。事業地の東側では平成7年度にガソリンスタンド建設に伴う本調査が行われ、縄文時代の竪穴住居跡4軒、小竪穴1基と中世の土坑列を調査している。今回検出されたものはその続きだと考えられる。事業地内での縄文時代の遺構の分布範囲は東側に集中しており、平成7年度調査の範囲を含めて径40mほどの範囲に集中している可能性が高い。

中世の土坑列はトレンチ3、4、8、13で確認されており、北西方向に一直線につながっている様子が確認された。この土坑列は検出時にはつながっていて溝状に見えるが、掘り下げていくとひとつひとつの土坑の輪郭が現れ、直径2mほどの土坑が列をなす様子が確認できる。平成7年度調査では野馬堀と想定されているが、セクションの観察から掘削した後、間を置かず埋め戻されていることから、耕作に関連して、種イモや野菜などを保管するための室ではないかと思われる。

トレンチ9の竪穴住居跡は壁沿いに幅30cmでサブトレを設定して掘削を行ったが、遺物の出土が多かったため、確認にとどめた。平面プランも攪乱に切られているため明瞭ではないが、円形と想定される。

(3) 出土遺物

縄文土器88点、土師器2点、陶器30点、磁器3点が出土。縄文土器の90%は竪穴住居跡が確認されているトレンチ9から出土している。時期は加曾利EII、器種は深鉢が多い。

陶器や磁器は耕作によって砕かれた小片ばかりで、表土や近世土坑などから出土する。

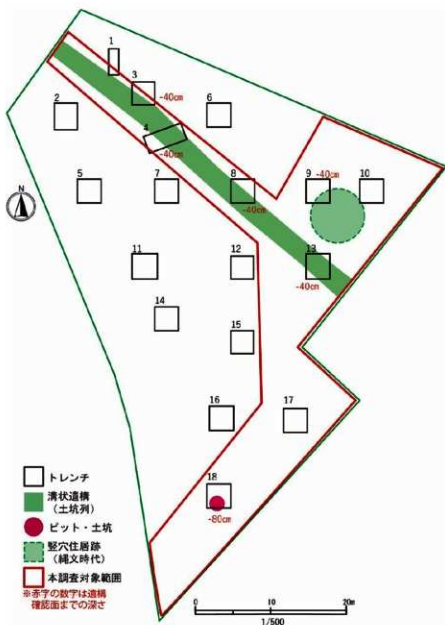
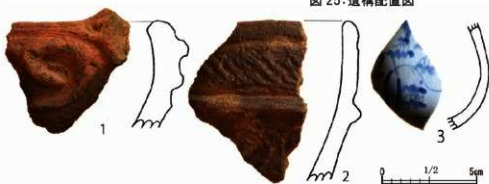


図25:遺構配置図



No.	時代	種別1	種別2	種別3	出土地点	備考
1	縄文	土器	加曾利E	加曾利EII	トレンチ9 竪穴住居跡内	キャリバー形。陸帯区画・意匠文。RL
2	縄文	土器	加曾利E	加曾利E I ?	トレンチ9 竪穴住居跡内	キャリバー形。陸帯区画。胴部沈線意匠文?。RL
3	近世	磁器	瓶	染付	トレンチ7 近世土坑内	

(4) 今後の取り扱い

事業地東側の縄文時代の遺構が見られる範囲と中世の土坑列が伸びる範囲 900 m²を本調査対象範囲とした。協議の結果、事業面積の縮小と設計変更により、本調査対象面積を約 550 m²にまで減じて、本調査へ向けた調整を継続している。



1:トレンチ 4 土坑列掘削状況



2:トレンチ 8 土坑列検出状況



3:トレンチ 9 遺構検出状況



4:トレンチ 9 南壁サブトレ 遺物出土状況



5:トレンチ 14 近世土坑検出状況



6:トレンチ 18 南壁 縄文時代土坑

報告書抄録

ふりがな	まいぞうふんかざいらんしょうしんないせきほうこうしょ								
書名	埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書								
副書名	—令和4年度—								
巻次									
シリーズ名	市内遺跡報告書								
シリーズ番号	第35冊目								
編者名	木口裕史・山下亮介・松田光太郎・西野雅人・岸本高亮								
編集機関	千葉市教育委員会 千葉市埋蔵文化財調査センター								
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL.043-266-5433								
発行年月日	2023(令和5)年3月24日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		調査種別	調査期間	調査面積	調査原因	
	市町村：遺跡番号		北緯	東経					種別/主な時代/主な遺構
へたの台貝塚	中央区仁戸名町275-7	12101	中央区 -84	35° 35' 37"	140° 9' 33"	本調査	2022年2月24日～ 2022年3月24日	27.7㎡	個人宅建業
貝塚 / 縄文時代 / 貝層、竪穴住居跡1軒、土坑1基						縄文土器、貝製品、石器		汚水管の埋設箇所のみ本調査、それ以外は現状保存。	
へたの台貝塚	中央区仁戸名町275-1、同6	12101	中央区 -84	35° 35' 36"	140° 9' 33"	確認調査	2022年6月8日～ 2022年6月14日	50㎡	住宅建業
貝塚 / 縄文時代 / 貝層						縄文土器、貝製品		汚水管の埋設箇所のみ本調査、それ以外は現状保存。	
へたの台貝塚	中央区仁戸名町275-7	12101	中央区 -84	35° 35' 37"	140° 9' 33"	本調査	2022年6月16日～ 2022年6月29日	1100㎡	宅地造成
貝塚、集落跡 / 縄文時代、古墳時代 / 貝層、竪穴建物跡3軒、土坑9基、ピット4基						縄文土器、土師器、石器		遺構分布範囲が広範囲にわたるため、取り壊しについて協議継続。	
立木雨遺跡	若葉区加曾利町947-2、954-3、同6	12104	若葉区 -127	35° 36' 50"	140° 9' 18"	確認調査	2021年10月25日～ 2021年12月10日	470.0㎡	宅地造成
集落跡 / 古墳時代 / 竪穴住居跡5軒、土坑1基						土師器、須恵器		遺跡部分及び埋蔵の深い箇所は本調査実施、令和4年度発行予定、北側は現状にて保存。	
居楽台遺跡	花見川区漁花町907-4	12102	花見川区 -130	35° 39' 31"	140° 4' 2"	確認調査	2021年8月31日～ 2021年9月15日	85.0㎡	宅地造成、住宅建業
集落跡 / 古墳時代 / 竪穴住居跡13軒、土坑1基						土師器、須恵器		遺構跡まで掘削があったため、インフラ部分以外は現状にて保存。	
高崎台遺跡	中央区星久喜町 315の一部	12101	中央区 -48	35° 36' 1"	140° 9' 13"	確認調査	2022年3月22日～ 2022年3月31日	115.0㎡	宅地造成
貝塚、集落跡 / 縄文時代 / 竪穴住居跡3軒、土坑・柱穴5基、貝層						縄文土器、石器		30cmの保護層を確保し、現状保存。	
聖天遺跡	若葉区多田町 65-1の一部、同7	12104	若葉区 -182	35° 36' 23"	140° 10' 54"	確認調査	2022年5月31日～ 2022年6月7日	44.3㎡	店舗建業
集落跡 / 古墳時代 / 竪穴住居跡1軒						縄文土器、土師器、鉄滓		計画を策定し、遺土にて保護層を確保し、現状保存。	
柳沢遺跡・玄蔭遺跡	若葉区小倉町965-1、1024-2、1023-5	12104	若葉区 -126・125	35° 37' 35"	140° 10' 4"	確認調査	2022年6月28日～ 2022年7月28日	342.0㎡	博物館および周辺施設整備
集落跡 / 縄文時代 / 竪穴住居跡、土坑、ピット						縄文土器、石器		令和5年度に本調査を予定。	
和唐地遺跡・理窟首台遺跡	中央区星久喜町938、954、955、956、957、958、959、938～954 地先赤道、956地先赤道	12101	中央区 -47・46	35° 36' 5"	140° 8' 46"	確認調査	2022年7月14日～ 2022年8月15日	315.0㎡	宅地造成
集落跡、古墳 / 古墳時代 / 竪穴住居跡3軒、円形円筒墓1基、溝状遺構2基、土坑2基、ピット22基						縄文土器、弥生土器、土師器、石器		設計変更が関係部分に関して、令和4年12月から本調査を実施。	
地蔵作遺跡	花見川区長作町959-1、1265-1、同3	12102	花見川区 -35	35° 40' 57"	140° 4' 26"	確認調査	2022年8月31日～ 2022年9月14日	164.0㎡	店舗建業
集落跡 / 縄文時代、中世～近世 / 竪穴住居跡1軒、土坑1基、土坑1基						縄文土器、土師器、陶器、磁器		遺構分布範囲が広範囲にわたるため、取り壊しについて協議継続。	
要約									

埋藏文化財調査（市内遺跡）報告書

—令和4年度—

発行日 2023（令和5）年3月24日

発行 千葉市教育委員会

〒260-8730 千葉市中央区千葉港1番1

電話 043-245-5962（生涯学習部文化財課）

印刷 株式会社白樺写真工業

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5

電話 043-423-1101